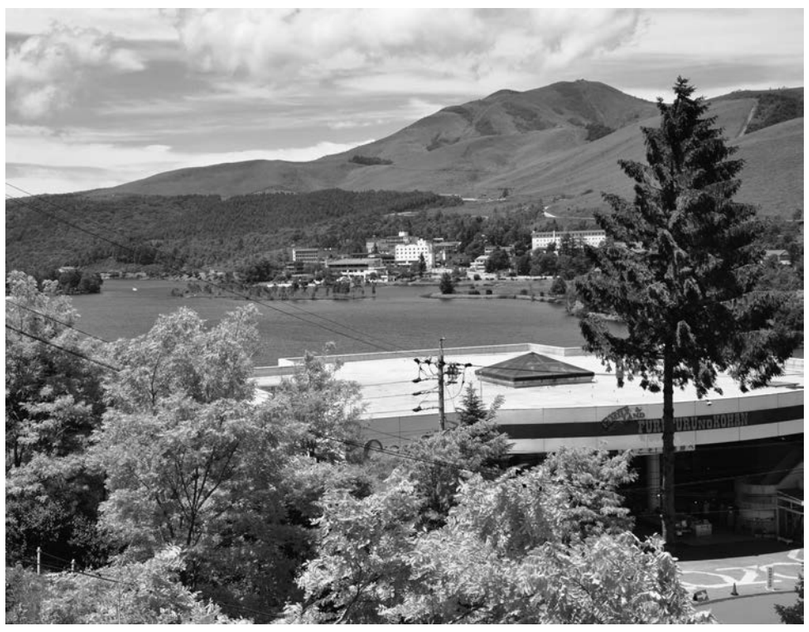
四季の体験フィールド

白樺リゾート観光協会

長野県茅野市の白樺湖は、四季それぞれに豊かな自然を体感でき、一方で洗練されたリゾート感覚の諸施設は安全と快適を兼ね備え、教育旅行に最適な体験フィールドを提供している。見学や体験のスポットを紹介する。


自然の懐に抱かれた白樺湖と白樺リゾート池の平ホテル＆リゾーツ

高原のリゾート性発揮
多彩なプログラムでコース作り容易

長野県は、スキー修学旅行の代表的な地域として知られている。また、茅野市の白樺湖一帯は、スキーだけでなく多彩なプログラムによって、年間を通した教育旅行先として注目されている。標高1500～1800㍍の大自然の懐に抱かれ、山や高原の木々が緑の萌えたつグリーン期、一面が真っ白な雪に覆われるホワイト期…四季折々にさまざまな表情をみせ、多様な体験ができる。

一例をあげると、グリーン期には真夏でも清涼な空間や環境を生かした自然観察や自然体験学習、トレッキング、ホワイト期にはスキーやスノーボードが行える。スキー場は、池の平スノーパークをはじめ、しらかば2in1スキー場、白樺高原国際スキー場、車山高原スキー場、ブランシュたかやまスキーリゾートなどが点在し、初心者から上級者まで対応しており、生徒たちの習熟度に合わせてコースが選べる。

スキー修学旅行でにぎわうホワイト期のゲレンデ

見学と体験

白樺湖畔にある世界の影絵・きり絵・ガラス・オルゴール美術館は、藤城清治の影絵、辰巳雅章のきり絵、世界各地から収集したガラス工芸品や古典オルゴールを一堂に展示している。ここでは、影絵制作が楽しめる影絵体験教室も開かれている。近くには、蓼科テディベア美術館がある。

体験プログラムは、万華鏡制作体験（影絵美術館）、デコスイーツ・ジェルキャンドル体験（同）、陶芸教室（池の平ホテル内）をはじめ、湖畔から車で5～35分圏内に手打ちそば道場、紙すき体験教室、黒耀石体験ミュージアム、乗馬体験、鷹山ファミリー牧場、長門牧場、女神湖スポーツ広場、体育館などがある。

林業や畑仕事など農村体験で生きる知恵を学ぶ「ほっとステイ」

御泉水自然園　長野県が明治100年記念事業第1号として開設した。蓼科牧場からゴンドラリフトで約5分。蓼科山の中腹、標高1830㍍、総面積169㌶の自然園は、約300種類の高山植物と、50種類の野鳥たちの宝庫だ

日帰り農村体験の「ほっとステイ」は、自然の中で生きる知恵を学ぶプログラムだ。日帰りといっても、事前学習として農村や農業、地域のことなどを調べて、体験先の農家にリポートや手紙を送るところから始まる。実際の農村体験、家人との昼食や交流、そして体験を振り返る事後学習まで、体験学習に欠かせない要素が含まれている。

問い合わせは、白樺リゾート観光協会☎0266（68）3003、白樺高原総合観光センター☎0267（55）6201。

白樺湖　昭和22年、かんがいが湖上に林立していたことから用温水のため池として、湿原地帯であったこの地を造成してつくられた湖。当時、白樺の枯木が湖上に林立していたことから白樺湖と名付けられ、現在に至る。標高1416㍍、周囲約4キロ㍍の白樺湖は、標高1925㍍の車山、2530㍍の蓼科山をひかえた広大な自然公園であり、高山特有の動植物を数多く見ることができる。

見て、触れて、学べる トリックアート美術館

日本発祥の参加型・体験型アートである〝トリックアート〟。平面の絵が飛び出したり、見る角度により違う雰囲気の絵に見えたりと錯覚を体験できるのはもちろん、作品と写真を撮ることで生徒の自由な発想を引き出す効果もあり、「楽しみながら美術や心理学について学習できる」と中学・高校の修学旅行では注目のスポットだ。中心施設である東京都お台場の施設がこの4月に拡張してリニューアルオープン。また昨年は「航海と冒険」をテーマにした新しい美術館が神奈川県横浜市のみなとみらい地区にオープンしている。

東京トリックアート迷宮館　展示がスケールアップ

東京・お台場にある「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートや人気作を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポット、お台場の中心（デックス東京ビーチ）にあり、多くの一般客や修学旅行客でにぎわっている。

今年4月、美術館は移設拡大、リニューアルオープンした。場所は同じデックス東京ビーチ4階の「アイランドモール」から「シーサイドモール（お台場一丁目商店街）」へ。面積が99坪から113坪へと拡大したほか、展示作品数が45作品から54作品へとスケールアップした。

テーマである「江戸」はそのままに、「華やかな江戸の彩」をコンセプトにした鮮やかな色調の館内に生まれ変わった。

入り口の「江戸エリア」は、にぎやかな江戸の町をイメージ。花魁（おいらん）道中やおみこしなどの色彩豊かな作品をそろえるほか、相撲部屋、大八車といった親しみやすいモチーフの作品も多数配置。

「愉快な忍者とお化けエリア」では、忍者や日本のお化けたちが来場者を迎える。館内には隠し扉など、さまざまなトリックも仕掛けられていて楽しい。

「トリックアート名作ギャラリー」は、過去の名作から最新作まで、人気作品を集めて展示。

「脳トレコーナー」には、クイズ作品や、人気の隠し絵を展示しており、遊ぶ感覚で錯覚の不思議を体験できる。

館内の作品はすべて手書きで描かれており、見て楽しむだけでなく、美術の学習素材としても利用できると高い評価を受けている。絵画の技術を学ぶだけでなく、自らの想像力を駆使してポーズを取り、写真作品を作れることも魅力の一つだ。

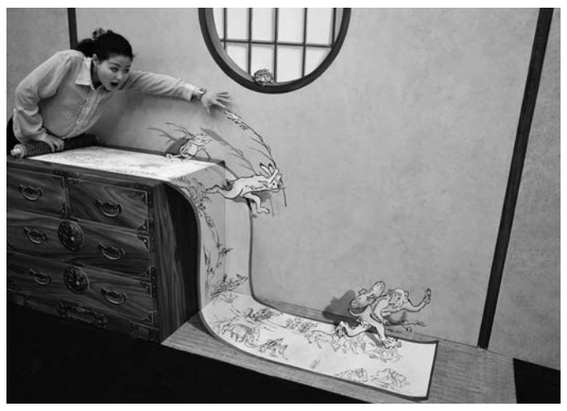
リニューアルにより、作品のほとんどが新作に入れ変わったことで、より新しい発見や楽しみを見つけ出せるという。

情感豊かな子供たちの学習の場と記念撮影のスポットとして、さらに人気の施設になることだろう。

▽東京トリックアート迷宮館は、東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチシーサイドモール4階。☎03（3599）5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人千円、中学生以下600円。

ムササビ忍者

背が高いのはどっち?


跳び出す鳥獣戯画

横浜トリックアートクルーズ　航海と冒険テーマに「みなとみらい」にオープン

「横浜トリックアートクルーズ」が昨年9月13日、横浜市のみなとみらい地区にオープンした。栃木県で「那須とりっくあーとぴあ」を運営するエス・デーが手掛ける、首都圏では東京・お台場に続く2軒目の美術館。港町横浜にちなみ、海の航海をコンセプトに設定。海の生きものをメインで構成。それぞれ錯覚の不思議な世界を楽しめる。サメに食べられそうになったり、身長が変わって見えたりするなど、ユニークな場面の写真を撮れる。作品は撮影のほか自由に触れることができるのも魅力だ。

館内は「出航ゾーン」「冒険ゾーン」「奇妙な船底ゾーン」「トレジャーゾーン」の四つのゾーンに25作品を展示している。

赤レンガ倉庫や中華街、カップヌードルミュージアムなどと合わせて、横浜・みなとみらい地区の修学旅行自由行動に適した見学地といえる。

エス・デーはトリックアートの創始者、故剣重和宗氏の遺志を受け継ぎ、「多くの人々に芸術への関心を持ってもらい、豊かな心を育成する」ことを社是に、展示会の開催など国内外で活動を続けている。

▽横浜トリックアートクルーズは、神奈川県横浜市西区みなとみらい2の2の1、横浜ランドマークプラザ4階。☎045（264）9240。不定休で、午前11時から午後8時まで営業。入場料大人700円、中学生以下500円。